2021 年 10 月 15 日
日本生命保険相互会社

ニッセイ インターネットアンケート
～環境問題について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ（https://www.nissay.co.jp）内の「ご契約者さま専用サービス」にて、環境問題に関するアンケート調査を実施いたしました。

≪アンケート概要≫

■実施期間 ： 2021 年 9 月 1 日（水）～9 月 14 日（火）
■実施方法 ： インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
■回答者数 ： 10,138 名（男性：5,101 名、女性：4,851 名、性別回答なし：186 名）

＜年代別回答者数＞

［名］

年代		～20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	合計
	男性	270	643	1,017	1,644	1,070	457	5,101
	女性	337	750	1,043	1,443	864	414	4,851
	合計	612	1,399	2,089	3,154	1,972	912	10,138
	占率	6.0%	13.8%	20.6%	31.1%	19.5%	9.0%	100.0%

《アンケート結果のポイント》

ポイント①
質問 1～5

【環境問題への関心・取り組みについて】
○**環境問題に関して 75.5%の方が「とても関心がある」「関心がある」**と回答した。**20 代以下・30 代では他の世代と比較して割合が低かった。**
○**関心の高い環境問題の 1 位は「気候変動・地球温暖化」**であった。
○**日常の取り組みの 1 位は「マイバッグ・マイボトルなどの持参」**であった。

ポイント②
質問 6～9

【商品購入時の意識について】
○全年代で **73.2%の方が、環境へ配慮していない商品よりも価格が高い場合でも、環境負荷のない商品を購入する**との結果となった。
○環境がテーマの金融商品へリターンが下がっても投資をしたいか、という質問に対しては、**47.5%の方が「したくない」**と回答した。

ポイント③
質問 10～17

【環境問題に関する知識について】
○「SDGｓ」について**全年代で 77.0%の方が「知っていて内容も理解している」「知っている」**と回答した。
○「パリ協定」について全年代で **73.4%の方が「知っていて内容も理解している」「知っている」**と回答した。
○「ESG 投資」について全年代で **70.9%**の方が**「聞いたことがない」**と回答した。
○環境問題についての情報源は **1 位がテレビ**で、**若年層ほどインターネットと回答した方が多かった。**

質問１　環境問題についての関心はありますか？　（回答者数：10,138 名）

○全年代で 13.9%の方が「とても関心がある」、61.6%の方が「関心がある」と回答した。
「とても関心がある」「関心がある」の合計は 75.5%となった。
○～20 代では 59.5%、30 代では 69.5%が「とても関心がある」「関心がある」と回答した。

■環境問題についての関心＜年代別＞

全年代の 75.5%の方が「とても関心がある」「関心がある」と回答した

(%)

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
とても関心がある	75.5	13.9	59.5	12.1	69.5	10.9	74.2	13.5	78.1	13.4	82.1	15.0	75.1	19.6
関心がある		61.6		47.4		58.5		60.7		64.6		67.1		55.5
あまり関心がない	24.5	21.1	40.5	33.7	30.5	25.9	25.8	22.4	21.9	19.2	17.9	16.0	24.9	20.2
全く関心がない		3.4		6.9		4.6		3.5		2.7		1.9		4.7

～20 代では 59.5%、30 代では 69.5%が「とても関心がある」「関心がある」と回答した

質問２　環境問題の中で最も関心が高いものは何ですか？　（回答者数：10,138 名）

○全年代で 75.8%の方が「気候変動・地球温暖化」と回答した。
○～20 代では 65.4%、30 代では 69.9%が「気候変動・地球温暖化」と回答した。

■最も関心の高い環境問題＜年代別＞

(%)

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
気候変動・地球温暖化	75.8	65.4	69.9	73.4	78.1	81.5	76.8
大気汚染	6.2	8.0	9.2	7.2	4.9	4.5	6.7
海洋汚染	4.5	6.5	5.4	5.3	4.7	3.3	2.2
その他	3.9	5.2	3.9	3.4	3.4	3.2	6.9
オゾン層の破壊	3.0	4.2	3.5	3.2	2.9	2.9	2.2
有害廃棄物の越境移動	2.2	2.3	2.4	2.0	2.6	1.6	1.9
生物多様性の減少	1.6	4.2	2.0	1.9	1.1	1.1	0.9
熱帯林の減少	1.3	2.3	1.4	1.8	1.1	0.7	1.5
砂漠化	0.9	0.7	1.4	1.2	0.8	0.7	0.1
酸性雨	0.7	1.1	0.9	0.7	0.4	0.5	0.9

質問３　環境問題の解決に個人として貢献したいと思いますか？（回答者数：10,138 名）

○全年代の 58.5%の方が「貢献したいと思う」と回答した。
○～20 代は「貢献したいと思う」と回答した方が 46.7%となった。

(%)

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
思う	58.5	46.7	55.4	60.2	61.5	60.8	52.1
どちらとも言えない	37.1	45.3	40.0	35.6	35.0	35.3	41.2
思わない	4.4	8.0	4.6	4.2	3.5	3.9	6.7

～20 代では、貢献したいと思う方が半数を下回った。

質問４　環境問題に対して、ご自身で日常的に何か取り組みをされていますか？

（回答者数：10,138 名）※複数回答可

○環境問題に対する日常的な取り組みとして、全年代において 67.8%の方が「マイバッグ・マイボトルなどの持参」と回答し１位となった。
○次いで、64.5%が「ごみの分別廃棄」、46.8%が「節電・節水」となった。

■日常的な取り組み

（%）

		全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1位	マイバッグ・マイボトルなどの持参	67.8	54.4	66.9	68.4	70.5	71.2	60.3
2位	ごみの分別廃棄	64.5	46.6	57.1	61.4	68.1	73.6	63.2
3位	節電・節水	46.8	34.3	42.5	43.8	50.4	53.6	41.9
4位	公共交通機関の利用	19.4	16.5	16.5	16.5	22.3	22.9	15.2
5位	環境に配慮した商品の購入・利用	18.3	11.3	16.3	17.6	18.9	22.6	16.8
6位	再生可能エネルギーの利用	10.8	6.9	11.2	13.0	11.2	10.0	8.2
7位	特に取り組んでいない	8.1	12.1	8.6	8.8	7.0	6.1	11.1
8位	環境保全ボランティア等への参加	4.6	7.2	4.7	5.1	3.9	3.7	6.0
9位	その他	1.9	2.3	0.9	1.6	1.9	2.3	2.9

質問５　環境問題の解決に向けて今後必要だと考えることは何ですか？

（回答者数：10,138 名）※複数回答可

○全年代において、58.9%の方が「企業の取り組み強化」と回答し、１位となった。
○次いで、46.7%が「個人の取り組み強化」、36.1%が「世界的な枠組みの構築」となった。

■環境問題の解決に向けて今後必要だと考えること

（%）

		全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1位	企業の取り組み強化	58.9	51.3	58.9	58.3	60.7	62.6	50.4
2位	個人の取り組み強化	46.7	41.2	46.4	49.1	46.7	47.8	42.5
3位	世界的な枠組みの構築	36.1	21.2	30.0	33.1	40.5	42.1	33.9
4位	学校教育における意識醸成	28.3	21.2	27.3	30.3	29.4	30.3	22.3
5位	企業への法的規制	24.9	16.5	23.5	24.4	26.9	27.5	21.6
6位	環境保全団体等への政府からの出資	15.6	18.8	15.9	13.9	14.6	16.7	18.3
7位	個人への法的規制	12.7	10.8	14.5	13.9	13.1	11.2	10.5
8位	ボランティア等の活性化	7.9	10.6	9.4	9.1	6.7	6.6	8.1
9位	その他	5.1	6.2	4.4	4.8	4.4	4.7	9.5

＜ニッセイ基礎研究所　チーフエコノミスト　矢嶋康次（やじまやすひで）のコメント＞

甚大な被害をもたらす豪雨災害などが年々増加し、個人の力ではどうにもならない地球温暖化の影響を感じることで、環境問題に対する危機意識は急速に高まってきています。ただし、環境問題により長く取り組んでいかなければならない若者の関心が相対的に低い点は課題となりそうです。

今回のアンケート結果からは、環境問題に対する個人の取り組みが着実に広がりを見せていることがわかります。レジ袋有料化を機に使用が増えたマイバッグの持参をはじめ、価値観が変化し具体的な行動を伴ってきています。

その一方で、環境問題という大きな課題解決のためには、個人だけでなく、企業の取り組みや、法的規制も含めた幅広い対策が必要との認識が広がっているようです。

国や各企業でも SDGs 達成に向けた取り組みなどが進んでいますが、個人は環境問題解決のためにはさらなる対策の強化が必要であると感じており、現在の取り組みとの間にはギャップがあるようです。

質問 6　機能が同様の場合、商品購入の際に何を重要視しますか？

（回答者数：10,138 名）※複数回答可

○全年代の 66.7%の方が「価格」と回答し、1 位となった。
○次いで、全年代の 62.1%の方が「安全性」、21.2%の方が「環境負荷」と回答した。

■機能が同様の場合の重視すること

（%）

		全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1位	価格	66.7	63.1	70.1	69.3	69.2	63.5	56.0
2位	安全性	62.1	49.7	60.0	59.6	62.5	68.6	64.4
3位	環境負荷	21.2	11.1	17.2	20.2	22.3	26.5	21.7
4位	評判	21.1	26.0	26.9	21.9	21.0	19.2	11.8
5位	特典（ポイントなど）	18.3	16.2	22.4	20.7	19.2	16.2	9.8
6位	ブランド	11.8	12.7	13.1	13.2	11.5	11.4	7.7
7位	購入時の接客	7.1	6.4	8.0	8.7	6.5	6.8	4.9
8位	提供する企業の理念等	6.6	2.8	4.9	5.6	7.0	9.0	7.8
9位	苦情等への対応	3.8	2.9	3.5	3.8	3.6	4.9	3.3
10位	その他	3.0	4.1	2.3	2.9	2.5	2.7	6.3
11位	広告	1.1	1.1	1.8	1.1	0.9	0.9	1.3

価格・安全性に次いで環境負荷が 3 位となった

質問 7　環境へ配慮していない商品との価格差がどの程度までであれば環境負荷のない商品を購入しますか？（回答者数：10,138 名）

○全年代で 73.2%の方が、環境へ配慮していない商品よりも価格が高い場合でも、環境負荷のない商品を購入するとの結果となった。
○全年代で 29.3%の方が「1.2 倍以内の価格であれば、環境負荷のない商品を購入する」と回答し、最も割合が高かった。

■環境へ配慮していない商品との価格差

（%）

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
2倍以上の価格でも購入する	73.2	4.5	66.0	6.7	69.1	4.1	72.7	4.3	74.1	3.9	78.2	4.7	71.1	6.1
1.5倍以内の価格であれば購入する		11.2		11.3		10.6		10.6		11.4		11.4		12.9
1.2倍以内の価格であれば購入する		29.3		21.1		26.5		30.5		29.3		33.1		27.6
1.1倍以内の価格であれば購入する		28.1		27.0		27.9		27.2		29.5		29.1		24.3
同額以下でなければ購入しない	26.8		34.0		30.9		27.3		25.9		21.8		28.9	

73.2%の方が 1.1 倍以内、1.2 倍以内、1.5 倍以内、2 倍以上の価格差の場合、環境負荷のない商品を購入すると回答した。

質問 8　環境がテーマの金融商品（投資信託など）に投資をしたことがありますか？
（回答者数：10,138 名）

質問 9　環境がテーマの金融商品（投資信託など）であればリターンが下がっても投資をしたいですか？（回答者数：10,138 名）

○環境がテーマの金融商品（投資信託など）への投資は、83.8%の方が、「経験がない」と回答した。
○リターンが下がっても投資をしたいか、という質問に対しては、47.5%の方が「したくない」と回答した。

■環境がテーマの金融商品への投資をしたことがあるか？

(%)

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
ある	7.9	6.5	6.9	6.8	7.9	9.9	8.0
ない	83.8	85.1	82.6	84.6	84.0	82.5	85.1
今後してみたい	8.3	8.3	10.4	8.6	8.1	7.6	6.9

■リターンが下がっても投資をしたいか？

(%)

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
したい	4.7	5.2	5.9	4.8	4.2	4.3	4.8
どちらとも言えない	47.8	46.6	49.0	49.2	48.7	47.9	40.0
したくない	47.5	48.2	45.0	46.0	47.1	47.8	55.2

＜ニッセイ基礎研究所　チーフエコノミスト　矢嶋康次（やじまやすひで）のコメント＞

商品購入の際に重要視する項目としては、価格、安全性に次いで、環境負荷との回答割合が高いです。実際に、環境へ配慮していない商品との価格差があったとしても、環境負荷のない商品を購入すると回答した方が73.2%いることからも、消費者の環境問題への意識の高さが伺えます。

一方で、近年拡大している ESG 投資などで環境がテーマとなっている金融商品については、リターンが下がっても投資をしたいという方は少ないようです。企業にとっては、環境に配慮しながらも、同時に収益性も追求しなければならない厳しい経営環境となってきています。

質問 10　「SDGs」という言葉を知っていますか？（回答者数：10,138 名）

（%）

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
知っていて内容も理解している	77.0	27.9	68.8	23.7	75.6	30.4	78.4	28.8	80.8	30.2	79.0	27.1	63.5	18.8
知っている		49.1		45.1		45.2		49.6		50.6		51.9		44.7
聞いたことがない	23.0		31.2		24.4		21.6		19.2		21.0		36.5	

全年代で 77.0%の方が「知っていて内容も理解している」「知っている」と回答した。

質問 11　2015 年に COP21 で採択された「パリ協定」を知っていますか？
（回答者数：10,138 名）

（%）

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
知っていて内容も理解している	73.4	13.8	55.6	12.7	63.5	12.8	71.2	14.0	78.6	14.7	81.9	14.0	69.6	11.5
知っている		59.7		42.8		50.8		57.2		64.0		67.8		58.1
聞いたことがない	26.6		44.4		36.5		28.8		21.4		18.1		30.4	

全年代で 73.4%の方が「知っていて内容も理解している」「知っている」と回答した。

質問 12　日本政府が 2050 年までのカーボンニュートラルの実現を目標としていることを知っていますか？（回答者数：10,138 名）

（%）

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
知っている	49.8	32.0	39.5	45.6	54.1	59.5	50.9
知らない	50.2	68.0	60.5	54.4	45.9	40.5	49.1

全年代で 49.8%の方が「知っている」と回答した。

質問 13　カーボンニュートラルの実現に向けて特に必要だと思うものは何ですか？
（回答者数：10,138 名）※複数選択可

「再生可能エネルギーの普及」と回答した方が各年代ともに 1 位であった。

（%）

		全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1位	再生可能エネルギーの普及	42.4	27.9	32.4	39.0	46.4	51.5	42.4
2位	火力発電の削減	18.3	13.1	13.7	16.4	18.9	23.2	20.0
3位	蓄電池の活用	14.8	9.8	12.0	14.3	15.7	17.2	15.0
4位	水素・アンモニアの利活用	13.8	8.7	10.3	12.0	14.5	18.0	15.5
5位	国際連携の強化	12.8	6.7	8.0	10.8	13.7	18.4	13.6
6位	製造プロセスの変革(バイオプラスチック等)	11.6	6.4	8.6	10.2	13.6	13.6	11.1
7位	税制・規制改革（排出量取引等）	11.0	4.9	8.7	11.2	11.6	13.7	10.2
8位	運輸の電動化（自動車・航空等）	10.1	3.9	7.1	8.9	10.7	13.9	10.9
9位	教育の充実	9.8	8.0	8.6	11.2	10.4	10.3	6.8
10位	政府の資金支援	8.4	4.6	6.9	8.0	8.9	10.2	8.1
11位	その他	6.1	8.7	4.9	6.7	5.5	5.0	8.9
12位	グリーンファイナンスの推進	5.5	3.8	4.4	5.6	5.3	6.7	5.7

質問 14　「ESG 投資」という言葉を知っていますか？（回答者数：10,138 名）

（%）

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
知っていて内容も理解している	29.1	8.6	24.5	9.8	24.6	8.1	28.6	8.7	31.5	8.9	31.5	8.8	27.3	6.7
知っている		20.6		14.7		16.4		19.9		22.6		22.7		20.6
聞いたことがない	70.9		75.5		75.4		71.4		68.5		68.5		72.7	

全年代で 70.9%の方が「聞いたことがない」と回答した。

質問 15【質問 14 で「知っていて内容も理解している」「知っている」と回答した方への質問】「ESG 投資」はさらに普及していくと思いますか？（回答者数：2,850 名）

（%）

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
思う	42.2	35.7	43.9	41.5	42.4	42.1	44.8
どちらとも言えない	51.8	50.3	49.6	53.4	51.8	52.8	49.6
思わない	6.0	14.0	6.6	5.1	5.8	5.1	5.7

全年代で 42.2%の方が「普及していくと思う」と回答した。

質問 16　11 月に COP26 が開催されますが、どのような会議か知っていますか？（回答者数：10,138 名）

（%）

	全年代		～20代		30代		40代		50代		60代		70代～	
知っていて内容も理解している	39.2	6.4	24.7	6.5	27.5	4.9	34.5	6.3	42.1	6.5	48.8	6.9	46.9	7.0
知っている		32.8		18.1		22.6		28.1		35.6		41.9		39.9
聞いたことがない	60.8		75.3		72.5		65.5		57.9		51.2		53.1	

全年代で 60.8%の方が「聞いたことがない」と回答した。

質問 17　環境問題に関する知識や情報をどこで得ていますか？（回答者数：10,138 名）

○環境問題に関する知識や情報を得ている先として、全年代の 43.1%の方が「テレビ」と回答し 1 位となった。
○インターネットから情報を得ていると回答した方が、若い世代ほど高かった。

（%）

		全年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1位	テレビ	43.1	37.1	42.1	40.4	44.9	44.6	45.5
2位	インターネット	29.6	42.8	39.9	35.6	28.5	22.2	10.7
3位	新聞	18.8	7.2	9.3	14.6	18.9	27.0	32.7
4位	その他	3.8	5.4	3.4	4.1	3.0	3.0	6.9
5位	勤務先での研修	2.0	2.8	2.5	2.4	2.4	1.3	0.3
6位	雑誌	1.7	2.6	1.6	1.5	1.6	1.5	2.2
7位	友人・知人	0.7	0.7	0.7	1.1	0.6	0.4	1.5
8位	学校	0.3	1.5	0.6	0.4	0.2	0.1	0.1

＜ニッセイ基礎研究所　チーフエコノミスト　矢嶋康次（やじまやすひで）のコメント＞

環境関連の用語は、CSR、ESG 、SDGs、カーボンニュートラルをはじめ、非常に多く存在します。一度は聞いたことのある言葉でも、内容まで理解している方は少ないようです。政府や企業等は、環境問題への理解醸成に努めるとともに、むやみに専門用語を使うのではなく、わかりやすく発信することも重要です。

また、最近では若い方を中心に、テレビや新聞といった従来からある媒体から、インターネットメディアへのシフトが進んでいます。従来のメディアとくらべて、インターネットは、双方向のコミュニケーションを得意としているほか、属性等に合わせパーソナライズ化された配信を可能にします。今後は、そうした技術を活用することで、環境問題への関心を一層高めていくことも重要です。

以　上

2021-1857G, 広報部